

連絡配信 詳細

編集

コピー

阪神淡路大震災を語り継ぐためには！

更新日時 2025年01月17日(金) 10:24

作成者 高田 浩一 最終更新者 高田 浩一

死者6434名を出した大震災から、今日で30年を迎えました。当時、私の弟が、神戸のなぎ倒された阪神高速道路の近くに住んでおり、鉄筋のアパートに住んでいたために、倒壊を免れ、かろうじて命を失うことはありませんでした。弟から、朝たまたま固定電話がつながり、「今地震があったけど、大丈夫だから。」という連絡がありましたが、私は、神戸で震度7の大地震があったことを知らず（テレビでも報道されておらず）「わかった。わかった。」と簡単に答えてしまいました。その後1週間ほど、連絡を取ることができませんでした。もし、弟から連絡がなかったら、
行方不明の弟を探しに行っていたと思います。

今、東日本大震災、長崎大水害も含め、記憶や教訓が風化していると言われています。いかに次の世代に語り継ぎ、教訓を生かしていくかが大きな課題となっています。若い世代が知らないということは、その震災がなかったことになってしまいます。災害を経験した者は、悲しみをのりこえ、同じつらい思いを繰り返さないために、記憶と教訓を語り継ぐことが大切です。経験をしていない人も、その話を聞いて語り継がねばなりません。私も語り継ぐものの一人として、決意を新たにしました。



IMG_8163.jpeg



IMG_8164.jpeg

配信設定 配信済

配信先

2024年度

全保護者

配信日時

2025年01月17日(金) 10:24

保護者既読状況

69 / 202名

未読一覧

全保護者（未読133名）